

第2回三重県人口減少対策推進本部会議 概要

1 開催日時：令和4年10月3日（月）13時00分～13時30分

2 議事概要：以下のとおり

（安井戦略企画部長）

- ・ それでは第2回三重県人口減少対策推進本部会議を開催する。
- ・ 本日の会議では、4月以降に実施してきた調査分析や意見交換、ヒアリング等、これまでの取組の検証等を共有して、今後の対策の基本的な考え方をご確認いただきたいと考えている。
- ・ 事務局から説明をさせていただく。

※資料1～5について、事務局（坂本人口減少対策課長）から説明

（高間総務部長）

- ・ 資料5、人口減少対策の基本的な考え方（案）の対策のポイントの4つ目に「子育て支援策を充実したことによる人口移動が現実に起きている。」とあるが、これはおそらく流山市と明石市を視察に行つてそういう文章になったのではないかと思う。本当にそうなのか。確かに子育て支援策は充実したかもしれないが、住宅事情や地理的状況といった他の要因が絡み合つて人が移動したのではないか。子育て支援策を充実したら人口増えるというような感じに読めるので違和感がある。
- ・ 資料4、自然減、育児の項目で「子どもの数の理想と現実のギャップ理由1位が『子育てや教育にお金がかかりすぎるから』」とあり、主な取組に「子ども医療費」と「保育料」と記載されているが、一番お金がかかるのは、高校、大学の在学時ではないか。子育てや教育にお金がかかるからと答えた方の詳細な調査をしなくてはいけない。本当に何にお金がかかるか分析できていないのではないか。「子ども医療費」と「保育料」を充実させたら、ギャップが埋まるとはあまり思えない。

（事務局）

- ・ 一点目の指摘については、地理的なことや、情報発信をうまくした等いろいろな要因があると思う。子育て支援策だけではないことをうまく表現できるよう検討したい。
- ・ 二点目の指摘について、医療費や保育料の事しか書いてないので、もう少しどうということにお金がかかるのか調査したい。できれば県民意識調査の中で具体的にどこにお金がかかるのかというようなことを問う項目を入れたいと考えており、その結果を踏まえて、今後の取組を検討したい。

（一見知事）

- ・ 資料4について、課題は大きなものを書いてあるが、細分化していくといくつかに分かれると思う。それがなくていきなり取組が書いてある。

（田中最高デジタル責任者）

- ・ ジェンダーギャップ解消について意見を申し上げたい。私もジェンダーギャップ解消戦略の策定に携わつた兵庫県豊岡市では、ジェンダーギャップ対策室を立ち上げて、家庭はもとより職場での性別による役割分担が固定し続けられないよう、地域でのワークショップや男性管理職向けの研修を実施している。また、女性のデジタル人材の育成にも力を入れており、子育て等の時間的制約がある女性にデジタルマーケティングのノウハウや技術を習得してもらうためのセミナーを定期的に行つたり、地域企業へのインターンシップやハローワーク等と連携した就労支援を行っている。

- ・国の男女共同参画会議でも、女性の就労支援や経済的自立、デジタル分野におけるジェンダーギャップの解消等を目的として女性デジタル人材育成プランが示されている。
- ・そういったことから、本県が女性にも選ばれる三重県をめざしていくにあたって、女性が自分らしく働ける環境づくりの一環として、ジェンダーギャップ解消とデジタルを掛け合わせた施策の検討をお願いしたいと考えている。

(後田地域連携部長)

- ・人口減少対策方針(仮称)の出来上がりは、今回示された基本的考え方をもう少し具体化するようなイメージなのか。
- ・三重県の人口減少対策を考えるときに、地域差があると思う。子育て支援策の充実という部分を県全体で考えていくのか、過疎化が進んでいる南部は別で考えるのか、どう検討しているか教えてほしい。

(事務局)

- ・方針については今回示した基本的な考え方をベースに具体的な取組を加えていくような形で考えている。
- ・ご指摘の地域差は重要だと考えている。ただ一方で、地域というのをどう考えるのか、北部・南部という考え方や市町でとらえるという考え方もあり、切り方で課題が変わっていくと思うので、今後検討していきたい。

(安井戦略企画部長)

- ・方針の最終案策定に向けて、基本的認識や取組については、検討を深めていくが、一旦このような形で対外的に説明もしながら議論を深めていきたい。
- ・先ほどご意見いただいた、子育て支援についてのコストの考え方については詳細な調査を実施していく。また、知事から指摘のあった資料4についても誤解のないように丁寧にブラッシュアップしていきたい。
- ・資料4の右側の当面の対応方向については、こういった方向で来年度当初予算の議論を進めていただきたいし、関係部局の皆様におかれては、これまでの取組を検証いただいて、来年度に限らず今後の取組について、ぜひご検討いただきたい。
- ・修正を前提として、このような方向性で進めさせていきたいがご異議ないか。
→異議なし。

(一見知事)

- ・人口減少問題は、各部局の取り組んでいる問題・課題に直結している。各部局が我がこと感を持って取り組んでほしい。
- ・誤解を恐れずに言うと、ゆでガエルになってはいけない。我々のような50代、60代が三重県を住みやすいと言っているだけではなく、10代、20代の人はずっと住んでもらえるよう、考えていかななくてはいけない。今の状態がいいから、このままでいいという考え方ではなく、どう変えていくべきなのかという議論をする必要がある。
- ・資料5、14ページの4つ目にあるように、本県の強みは何で弱みは何か、人口減少の観点で考えていく必要がある。
- ・そのうえで資料5、15ページの下から2つ目の点だが、三重県は情報発信も弱い。流山市や明石市のように情報発信を行っている市町もあるが、どうやって情報発信していくかというところも考えていかななくてはいけない。
- ・「県民との円卓対話」で鳥羽市の若い人から「人口減少対策をなぜもっと早くからやらなかったのか。やっていってください」というエールをいただいた。特に若者たちが三重県に残るかどうか瀬戸際に来ている。もう少し残りやすいようにしてほしいという切実な声がある。

- ・また、円卓対話で高校生と話していると、三重県は交通が不便なので外に出ていきたいという声もあった。
- ・地域の賑わいの話もあった。三重県は車社会なので、大きな道沿いにショッピングモールが集中しているが、これからは、高齢化社会なので、みんなが車で移動するわけではない。駅前にスーパーもない、保育所もない状況である。これから駅前開発をしていく地域は三重県内にもあるので、そういったことも考えていかななくてはならない。
- ・今後、方針をまとめる際、すぐに着手できるものばかりではないが、ある程度の行程表をお示ししたほうが良いと考えている。
- ・地域差は当然あるので、市町ごとではないと思うが、この地域はこういう人口の流動があるので、こういう対策を取るとか、自然減対策は、県全部で同じようなものがあるかもしれないが、社会減になると地域の違いがかなりあると思うので、着飾ることなく、三重県の実態を捉えてやっていくしかないと思う。
- ・一昨日の三市の首長会議でも話題に出たが、子ども医療費の無償化について首長から切実な声が出てきている。しかし県の財政は限りがあるので、できること、できないことを考える必要がある。しかしながら、周辺の県はかなり進んでいる。財政面でできないなら、他の面で何ができるかタブー無しで考えていくことが大事。
- ・各部局におかれては、引き続き協力をお願いしたい。